

第713回 日本小児科学会東京都地方会講話会 プログラム

日 時： 2026年3月14日(土) 午後2時00分

開催会場： アットビジネスセンター八重洲 501号室

* 講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

| 参加費 | 教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について | 備 考 |
|---------|--|-------------------------------------|
| 1,000 円 | 専門医共通講習（医療安全講習会） 1 単位（ii 貼付用） 学術集会参加単位（iv-B 貼付用） | * 単位を取得するためには教育講演 全ての聴講が必要（60 分） |



【会場アクセス】

■ JR 東京駅（八重洲口）より徒歩約 10 分

■ 日比谷線 八丁堀駅より徒歩 2 分

※日比谷線八丁堀駅（A5 出口）

アットビジネスセンター八重洲 501 号室

東京都中央区八丁堀 1-9-8 八重洲通ハタビル 5・6 階

※建物の外観：ガラスカーテンウォール

※看板表記：ABC conference room

【東京都地方会】

会 長：水野 克己（昭和医科大学医学部小児科主任教授）

主幹校：昭和医科大学医学部小児科 担当：阿部 祥英

連絡先：jpestokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中の緊急のご連絡は会場 03-6627-2151 まで

東京都地方会 HP：<https://jpeds-tokyo.com/>



第 713 回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内厳守のこと)

◀プログラム係 順天堂大学医学部小児科学講座 東海林 宏道▶

一般演題 (1) 14:00 - 14:50 座長 小嶋 まゆき (東部地域病院 小児科)

1) 3 歳児健診で発見された卵巣奇形腫の 1 例

○村田 幸亮¹⁾、町元 菜紗²⁾、二見 奏音²⁾、鈴木 未来²⁾、松岡 峻也²⁾、田畑 恭輔²⁾、戸田 方紀²⁾
柏木 項介²⁾、宮野 洋希²⁾、宮田 恵理²⁾、五十嵐 鮎子²⁾、鈴木 恭子²⁾、大友 義之²⁾、長廻 優輝³⁾
矢崎 悠太³⁾、林 豊³⁾、浦尾 正彦³⁾

(¹⁾ 順天堂大学医学部附属練馬病院 臨床研修センター、²⁾ 同 小児科、³⁾ 同 小児外科)

3 歳女児。臍右側に腫瘤を触れることに母が気づき 3 歳児健診で相談した。仰臥位での触診で同部位に 5 cm 程度の腫瘤が触知され、紹介された。造影 CT で内部に石灰化を伴う径 10 cm の多房性嚢胞性腫瘤を認め、卵巣奇形腫を疑い、右付属器切除後の組織診断で成熟奇形腫と診断した。3 歳児健診では発達、育児相談、視力検査などを重視しがちだが、身体診察の基本である仰臥位での腹部診察が疾患の早期発見につながる場合もある。

2) 腰髄播種による下肢痛で発症した AYA 世代髄芽腫の 1 例

○笠井 拓登、河田 健斗、石川 貴大、古澤 恭平、鳴釜 里彩子、高田 啓志、伊藤 淳平、嶋 晴子、
鳴海 覚志

(慶應義塾大学医学部 小児科)

16 歳女子。右下肢痛を主訴に近医整形外科を受診し、MRI 所見から L4 神経鞘腫と診断された。その 1 か月後に複視が出現し、MRI で中脳および腰髄播種を伴う小脳腫瘍を認めた。2 週間後、腫瘍内出血をきたし開頭腫瘍摘出術を行った。髄芽腫と病理診断され、全脳全脊髄照射および化学療法を行い、経過は良好であった。AYA 世代においても、脊髄腫瘍を認めた場合には、頭蓋内腫瘍からの播種を鑑別に挙げる必要がある。

3) 光線過敏症状から診断に至った赤芽球性プロトポルフィリン症の 1 例

○佐藤 蘭子¹⁾、石川 史²⁾、我有 茉希²⁾、殿園 晃平²⁾、金田 朋也²⁾、阿久津 裕子²⁾、林 祐子²⁾
清水 正樹²⁾、高木 正稔²⁾

(¹⁾ 東京科学大学病院 総合教育研修センター、²⁾ 同 小児科)

6 歳男児。部活の合宿中に眼瞼、口唇周囲および手背の腫脹を認めた。家族歴があり、遺伝性血管性浮腫が疑われ、当院を紹介された。以前から日光曝露後に露光部の腫脹を繰り返していた。血中プロトポルフィリンが高値で、FECH 遺伝子に既知の病的バリエント c.343C>T があり、対側のアレルに c.315-48T>C の一塩基多型を認め、赤芽球性プロトポルフィリン症と診断した。光線過敏症では本症も鑑別すべきである。

4) プロプラノロール塩酸塩により血行動態の改善と縮小を認めた新生児肝血管腫の 1 例

○細見 航介¹⁾、森下 俊真²⁾、佐藤 俊介²⁾、武藤 大和²⁾、井神 健太²⁾、山田 啓迪²⁾、池野 充²⁾
菅沼 広樹²⁾、東海林 宏道²⁾

(¹⁾ 順天堂大学医学部附属順天堂医院 臨床研修センター、²⁾ 同 小児科・思春期科)

日齢 0 男児。胎児期 (妊娠 25 週) に肝血管腫を指摘された。胎児期から高心拍出性心不全を合併し、在胎 38 週 6 日に出生した。日齢 1 の造影 CT 検査で肝左葉に動脈相での増強、静脈の早期描出を伴う高流量性肝血管腫を認めた。日齢 2 からプロプラノロール塩酸塩を投与し、3 mg/kg/日まで増量した。日齢 20 の造影 CT 検査では静脈の早期描出は消失した。日齢 111 の超音波検査にて腫瘤は縮小、心不全の改善を確認した。

5) 水筒による腹部鈍的外傷で小腸穿孔をきたした小児の1例

○高橋 修明、上原 健史、小峯 柊野、伊藤 愛香里、小笠原 亨、周戸 優作、戸張 公貴、齋藤 宏

(板橋中央総合病院 小児科)

8歳男児。水筒を首から下げた状態で転倒し腹部を受傷、腹痛と嘔吐を認め、前医を受診した。精査で異常なく帰宅したが、症状が増悪し当院を受診した。造影CT検査で腹腔内遊離ガス像を認め、腸管穿孔を疑い、審査腹腔鏡を行った。上部小腸に穿孔を認めたため閉鎖し、術後経過良好で第5病日に退院した。水筒による腹部受傷では局所の圧迫で腸管穿孔を生じうる。初期評価が陰性でも症状が遷延する場合は再評価が重要である。

一般演題 (2) 14:50 - 15:35 座長 森下 俊真 (順天堂大学医学部附属順天堂医院 小児科・思春期科)

6) 体重増加不良を認めた Bednar アフタの乳児例

○金輪 守英^{1,2)}、益田 博司²⁾、笠井 俊宏^{1,2)}、津田 正太^{1,2)}、永井 章²⁾、二木 良平³⁾、河合 利尚⁴⁾、窪田 満²⁾、庄司 健介^{1,5)}

(¹⁾ 国立成育医療研究センター 教育研修センター、²⁾ 同 総合研修部、³⁾ 同 感染制御部、⁴⁾ 同 免疫科、⁵⁾ 同 感染症科)

1か月乳児。哺乳低下と口腔内潰瘍を認め、前医で鵝口瘡として抗真菌薬を投与されたが改善せず紹介された。血液検査で異常なく、体重増加は12g/日と不良であった。硬口蓋後方の対称性潰瘍からBednarアフタと診断し、哺乳痛による体重増加不良と考え胃管栄養を開始した。1週間で潰瘍は改善し体重も増加した。胃管抜去後も再発を認めていない。乳児期の口腔内潰瘍では本疾患も早期から鑑別に挙げることが重要である。

○指定発言 五十川 伸崇 (国立成育医療研究センター 歯科)

7) 誤嚥性肺炎の加療中にビタミンK欠乏症を合併した重症心身障害児の1例

○上田 英、渡邊 由祐、千代反田 雅子、田仲 樹、河内 優美、林 佳奈子、春日 晃子、山中 岳
(東京医科大学病院 小児科・思春期科)

4歳女児。乳児てんかん性スパズム症候群の既往があり、ケトン食療法中であった。誤嚥性肺炎のため入院したが、誤嚥性肺炎の増悪を繰り返し、経腸栄養の再開に難渋した。第11病日にPT-INRとPIVKA-IIの高値を認めたためビタミンKを補充し、速やかに血液凝固異常は改善した。栄養再開後は補充を終了しても凝固能の増悪なく経過した。食事療法中の児では、禁食時の微量栄養素欠乏に注意して診療にあたる必要がある。

8) 咽頭軟化症にてNPPVを導入した軟骨無形成症

○數間 貴紀、松岡 尚史、衛藤 薫、鈴木 悠、東 範彦、老谷 嘉樹、池野 かおる、長谷川 茉莉、小谷 碧、三田 さくらこ、長田 知房、岡崎 菜摘、小菅 健司

(東京女子医科大学附属足立医療センター 小児科)

9か月男児。生後1か月から鼻閉音が著明であった。外見的特徴から軟骨無形成症が疑われ、他院の遺伝子検査で診断に至った。睡眠時無呼吸、SpO₂低下を認め、大後頭孔減圧術を実施した。術後も入眠時に努力呼吸を認め、在宅経鼻陽圧換気(NPPV)導入目的に当科に転院した。喉頭気管支鏡検査(BF)で咽頭軟化症と診断され、NPPV導入で軽快した。大後頭孔減圧術後も喘鳴が残る場合にはBFで再精査する必要がある。

9) 陰圧性肺水腫が疑われたクループ症候群の1例

○安部 由起¹⁾、吉橋 誠人²⁾、水野 李香²⁾、若園 大輔²⁾、安藤 理恵²⁾、橋本 悟²⁾、保崎 明²⁾、
吉野 浩²⁾、成田 雅美²⁾

(¹⁾ 杏林大学医学部附属病院 総合研修センター、²⁾ 同 小児科)

10歳男児。突然の咽頭痛と呼吸困難のため救急搬送され、搬送中にピンク色の泡沫痰を認めた。到着時SpO₂ 60%で、強い嘔声、吸気性喘鳴、犬吠様咳嗽からクループ症候群と診断した。酸素投与、ステロイド薬吸入、デキサメタゾン静注により気管挿管はせず、呼吸困難は改善した。X線検査で右肺門部に浸潤影を認め、クループ症候群に合併した陰圧性肺水腫が疑われた。重症クループ症候群では陰圧性肺水腫に留意する必要がある。

* * 休 憩 15:35 - 15:45 * *

感染症だより 15:45 - 16:00 (講演: 15分)

講師 北村 則子 (国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所
感染症疫学センター・予防接種研究部併任)

共催セミナー 16:00 - 16:40 (講演: 40分)

「夜尿症のみかた・治しかた～外来診療の最適解～」

座長 東海林 宏道 (順天堂大学医学部 小児科学講座)
講師 西崎 直人 (順天堂大学医学部附属浦安病院 小児科)

小児科外来では、おねしょ・おもらしの相談は多いが、その最適解は症例ごとにちがいが、対応に苦労する。日本夜尿症・尿失禁学会のガイドラインでは、(単一症候性)夜尿症に対する積極的治療としてデスマプレシン口腔内崩壊錠とアラーム療法が第一選択とされるが、ただ処方したり、ただ続けさせたりするだけでは良くならない例もある。本講演では、夜尿症外来での工夫や考え方を紹介し、最適解に近づくためのコツを共有する。

共催: 株式会社アワジテック

* * 休 憩 16:40 - 16:50 * *

演題募集中!

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。

【東京都地方会 HP】 <https://jpeds-tokyo.com/>



「当院のAIホスピタルの現状と医療DXの今後」

座長 水野 克己 (昭和医科大学医学部 小児科学講座)

講師 陣崎 雅弘 (慶應義塾大学医学部 放射線科学)

医療DXを進めるうえで重要なのは、組織全体としてDX推進の体制を構築することです。医師だけでなく、事務職や看護職などコメディカルの積極的な関与が不可欠となります。もう一つの重要な要素は、AIやITの技術を適切に導入していくことです。高度な業務をAIに任せようとしがちですが、普遍的な業務をITで効率化することが第一歩となります。そのためには、データのデジタル化と可視化、業務の遠隔化、ロボットの活用が鍵となります。今後は、AIエージェントの導入が盛んになっていくことになると思われます。

◆ 2026年度 講話会予定 (会場開催のみ) ◆

■ 2026年度 NEW

△ 6月13日(土)の講話会会場のみ東京慈恵会医科大学内での開催となります△

お間違いのないようご注意ください

| 講話会 | 日程 | 会場 | 備考 |
|-------|----------------|---------------------------------------|-------------------|
| 第714回 | 2026年6月13日(土) | 東京慈恵会医科大学 2号館1階講堂 (港区西新橋3-25-8) | ※演題締切 2026年4月20日 |
| 第715回 | 2026年7月11日(土) | アットビジネスセンター 八重洲通 | ※演題締切 2026年5月20日 |
| 第716回 | 2026年9月12日(土) | | ※演題締切 2026年6月20日 |
| 第717回 | 2026年10月10日(土) | | ※演題締切 2026年8月20日 |
| 第718回 | 2026年12月12日(土) | | ※演題締切 2026年9月20日 |
| 第719回 | 2027年1月9日(土) | | ※演題締切 2026年11月20日 |
| 第720回 | 2027年2月13日(土) | | ※演題締切 2026年12月20日 |
| 第721回 | 2027年3月13日(土) | | ※演題締切 2027年1月20日 |

* 4, 5, 8, 11月は休会

※申込演題が規定数を上回った場合、さらに1回先になることがありますのでご了承ください。
その場合事務局よりご連絡致します。

■ 第51回東日本小児科学会のご案内

会 長：白石 秀明 教授 (獨協医科大学小児科学 主任教授)

日 程：令和8年11月23日(月・祝)

会 場：ホテルマイステイズ宇都宮 (ハイブリッド開催)

URL：準備中

■ 小児診療初期対応（JPLS）開催予定

日本小児科学会と東京都地方会の共催で小児診療初期対応（Japan Pediatric Life Support：JPLS）を2025年度は年間3回開催いたしました。

2026年度は下記の通り年間6回の開催が予定されております。

取得単位：小児科専門医（新制度）更新単位 iii小児科領域講習3単位

| 開催日程 | 会場 | 申込開始時期 |
|---------------|--------------|-----------------|
| 2026年6月7日（日） | 東京慈恵会医科大学 | 締切：2026年3月6日（金） |
| 2026年7月18日（土） | 慶應義塾大学 | 2026年3月中旬 募集開始 |
| 2026年9月5日（土） | 帝京大学 | 2026年5月初旬 募集開始 |
| 2026年12月6日（日） | 日本大学 | 2026年8月初旬 募集開始 |
| 2027年1月24日（日） | 東京大学 | 2026年9月下旬 募集開始 |
| 2027年2月7日（日） | 国立成育医療研究センター | 2026年10月初旬 募集開始 |

募集人数：12名 ※最少催行人数8名

申し込み先：日本小児科学会 HP ※詳細についても小児科学会 HPにてご確認ください

https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=221

◆ 会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ ◆

【2026年会費納入について】

2024年度より年会費が8,000円となっております。

2026年度会費納入のお知らせを2026年4月1日以降メールおよびホームページにてご案内いたします。

2025年度会費及び2024年度・2023年度 会費未納の方は、2026年3月末日までに【会員マイページ】より納入手続きいただきますようお願いいたします。

*3年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。

*会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きをお願いいたします。

*講話会当日、会場受付にて年会費をお支払いいただくことも可能です。お気軽にお声かけください。

【年会費免除申請について】

学部学生（大学院生は除く）および、初期臨床研修医は年会費および講話会会場費は免除とします。

学部学生は学生証、初期臨床研修医は職員証（写）と年会費免除申請書（東京都地方会ホームページよりダウンロード可）を事務局に申請してください。

【東京都地方会名誉会員のご推薦について】

東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにてご確認をお願いいたします。

ご不明な点がございましたら運営事務局までご連絡をお願いいたします。

【主幹校（会長校）】昭和医科大学医学部小児科

【運営事務局】日本大学医学部小児科

【主幹校／運営事務局 共通アドレス】

✉ jpstokyo-office@umin.ac.jp

【東京都地方会 HP】

<https://jpeds-tokyo.com/>

